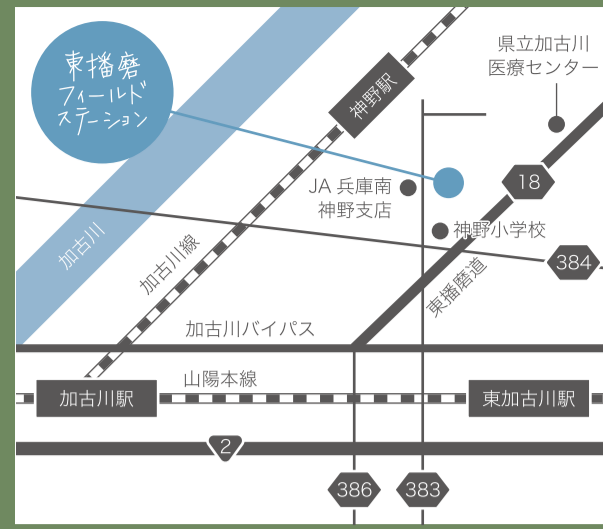


ANNUAL REPORT 2020



東播磨フィールドステーション

〒675-0003 兵庫県加古川市神野町神野 690-1

Tel : 079-440-7822 (柴崎)

Mail : e-harima@kobe-face.jp

H P : https://e-harima.kobe-face.jp

開室日: 月水木金 9:00-17:00 (原則)

オフィスアワー: 毎週木曜 13:00-17:00

最新情報はFacebook ページで発信中

HP



Facebook

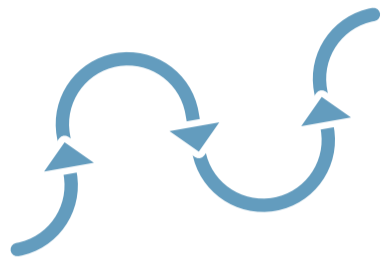


フィールドステーションの利用

ワークショップ&セミナースペース (25人対応)
*貸しスペース事業は行っていません。

東播磨フィールドステーションの目的

地域のレジリエンスを高めること



レジリエンス (Resilience) とは、環境・状況の変化に適応し、持続発展していくための能力やシステムのこと。強靭さ、復元力、防災力などと訳されます。人口減少や気候変動、不安定な経済環境などに適応する地域の力です。

レジリエンスを高めるために、ため池をはじめとする地域資源を保全・活用していく先駆的モデルを創出します。

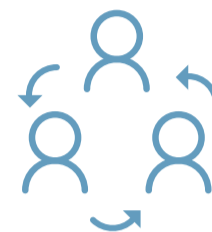
東播磨フィールドステーションは、そのために設置された交流・研究拠点です。

取り組みの3本柱



環境・経済エコシステムの構築

東播磨地域にある資源を有効活用し、地域の社会面、経済面、環境面、防災面などを統合した新たなエコシステムを構築します。



地域人材の育成とネットワーク

新しい価値を創造し、問題解決を図る人材を育成するとともに、そのネットワークを形成します。



地域ナレッジの継承・創造

地域で蓄積されたナレッジ (知識、知恵、知見、情報など) を収集、整理するとともに新たに創造します。

プロジェクトの目標

1 ため池サービスを向上させる連携の創造

どのような主体と連携することが好ましいのか。それは、地域の環境や資源によって異なると考えます。そこで、以下の3つの連携を創造することで、地域全体のため池サービスを向上させます。

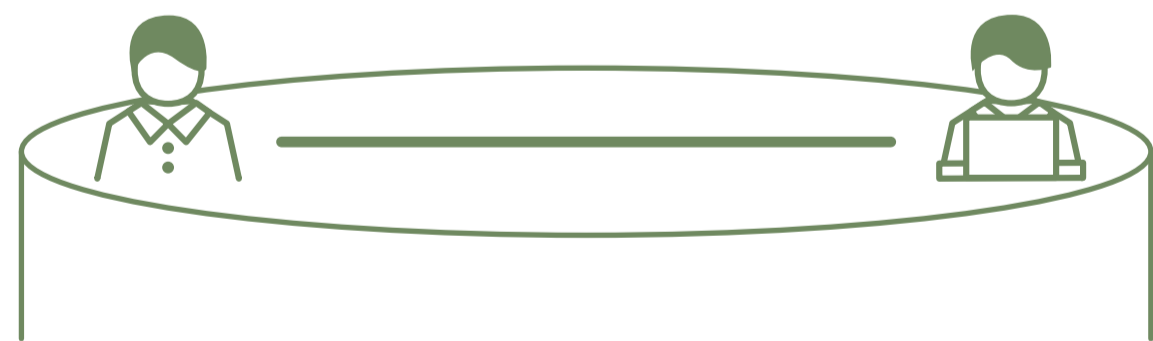
A 適正管理に向けた農家間の連携

ため池をはじめとする地域資源の主な管理主体である農業者コミュニティの強化に向けて、農家間の新しい連携を創出・サポートします。



B 協働管理体制の構築に向けた農家・市民の連携

「いなみ野ため池ミュージアム」など、これまでの取り組みをブラッシュアップするとともに、新たな農家・市民の連携を創出・サポートします。



C エコビジネスの促進に向けた農家・市民・ビジネスセクターの連携

様々な領域のビジネスセクターとため池管理者をつなぎ、新たな活用の可能性を検討します。

2 連携を支えるツール・プラットフォームの開発

3つの連携を生み出すために、どういったツール・プラットフォームが必要で、それはどのように開発できるのでしょうか。様々な領域の専門家と連携して開発しています。

東播磨地域の悩み

これから先、誰がどのようにため池を管理、活用していけばいい?

東播磨のため池の数 (明石市・加古川市・高砂市・福美町・播磨町) **574** 個



社会背景の変化とともに、管理が行き届かないため池や、決壊リスクが高いため池も増加傾向にあります。

東播磨県民局では、いなみ野ため池ミュージアム (2002~) など、農家だけではなく市民とともにため池を守っていく取り組みがおこなわれてきました。しかし、それだけでは、限界があることもみえてきました。ため池を適正に管理していくことや、新たな価値を生み出すための連携の創造が求められています。



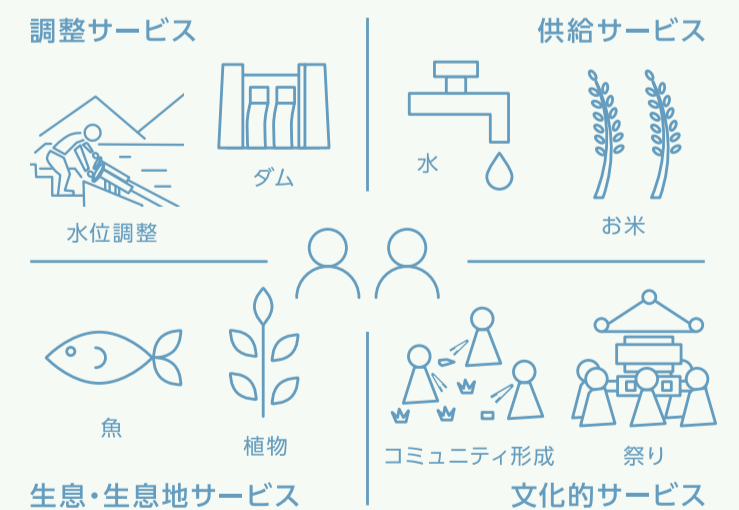
【作業の主体】	過去	【作業の内容】	現在
行政・専門家	施設の補修		
農家 (水利組織役員)	水や金の管理 設備の点検 (補修)		+
農家・住民	草の管理 水路清掃		+
市民			+

※三角形の面積は関わる人数をイメージ

図 ため池管理作業と主体の変化

ため池サービスとは?

ため池は、農業用水の供給という本来のサービスだけでなく、多様な公益的なサービスを地域社会に提供しています。また、これまでになかった新たなサービスを創造していただける可能性もあります。それらサービスの総体を「ため池サービス」と呼んでいます。



プロジェクトスタッフ

駐在員 (コーディネーター)



柴崎 浩平
神戸大学大学院農学研究科
特命助教 (農業農村経営学)

ボードメンバー



星野 敏
京都大学大学院農学研究科
教授 (農村計画学)



中塚 雅也
神戸大学大学院農学研究科
教授 (農業農村経営学)



内平 隆之
兵庫県立大学地域創造機構
教授 (建築学)



長野 宇規
神戸大学大学院農学研究科
准教授 (地球環境工学)

スタッフ



井筒 耕平
(株)sonraku 代表取締役
神戸大学学術研究員



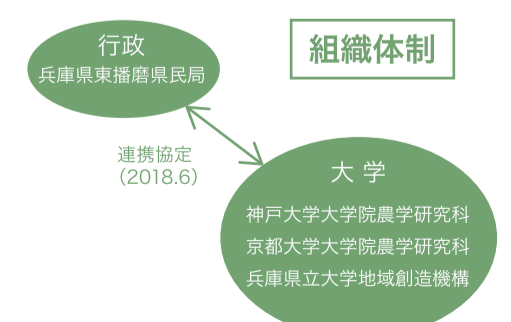
中村 聡美
いなみ野ため池ミュージアム
運営協議会コーディネーター



坂井 柊斗
神戸大学経営学部3年生
学生インターン



濱田 香織
神戸大学事務補佐員



<連携窓口>
東播磨県民局地域振興室県民課 (水辺地域づくり担当)
陰山 晶彦 (室長)、安國 康生 (参与)、野村 純数 (班長)
いなみ野ため池ミュージアム運営協議会
高見 良仁 (コーディネーター)

1 ため池サービスを向上させる連携の創造

A 適正管理に向けた農家間の新しい連携

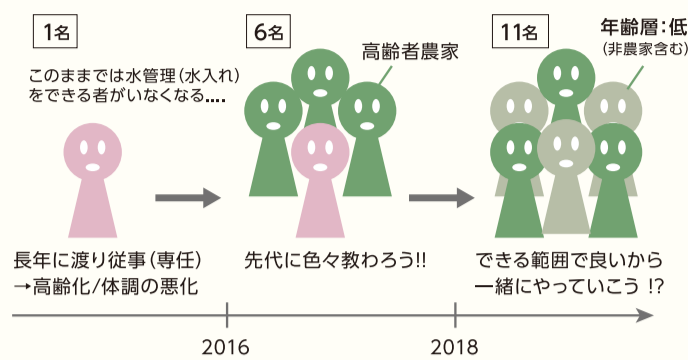
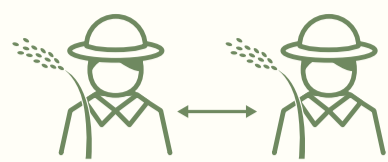
1. 管理作業の省力化と担い手確保方法の提示

人口・農家が減少していくなかで、どのようにため池を管理していけばいいのか。管理作業の省力化事例や担い手の確保事例を収集し、その方法を共有していきます。

ため池管理における次世代の人材確保の方法

ため池を管理していく次世代の人材を確保していくために、どのような方法が望ましいか。優良事例(右図)の分析をおこなうとともに、事例の比較をおこなっています。

今後の課題 今後の課題 今後の課題 今後の課題



2. 農地・水・環境の管理組織の効率的な運営方法の提示

営農を続けるために、農地・水・環境の管理組織はどうあるべきか。各管理組織の基礎データを収集することを通して、効率的な運営方法を提示していきます。

今後の課題 再編事例の収集

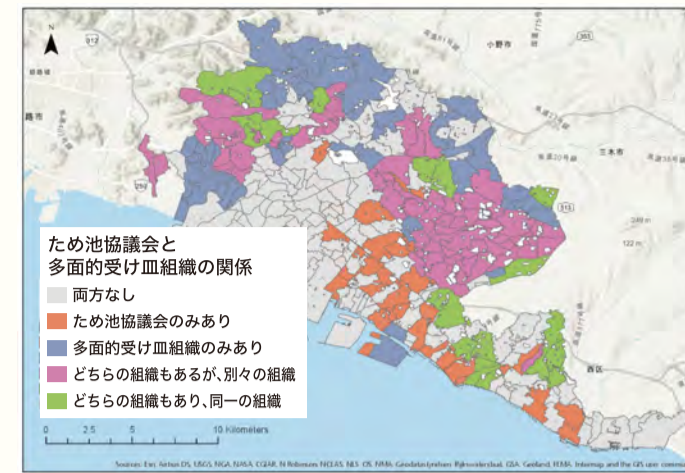


図 集落ごとにみたため池協議会と多面的受け皿組織の関係

B 協働管理体制の構築に向けた農家・市民の新しい連携

1. 課題解決のためのコミュニティビジネスづくり

ため池管理における重要課題を解決するコミュニティ・ビジネスを創出します。新たな団体・法人の立ち上げサポートや事例収集を通して、その育成を支援していきます。

草刈りの継続実施に向けたコミュニティづくり

畦やため池の堤体の雑草の管理が大きな地域課題となっているなか、草刈りサービスを提供するコミュニティ(「群師」グループ)を創出するための手法を構築しています。

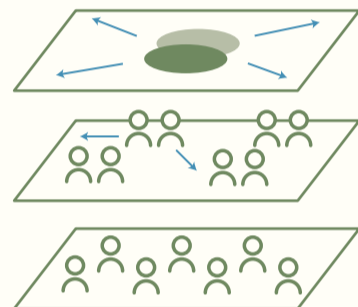
今後の課題 新たなグループの設立支援、活動サポート



広域専門(シルバー人材センターなど)

畦師グループ

個人農家(営農組合)



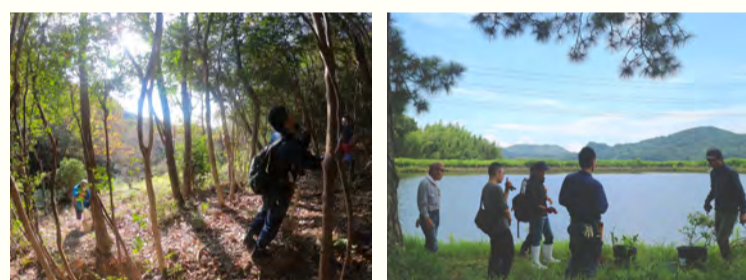
畦師グループ生まれてます!

- 多世代・他地域での草刈りを行うグループ(稲美町、高砂市)
- 地域住民による地域の草刈りを行うグループ(加古川市原地区)

里山資源の保全に向けたコミュニティビジネスの創出

管理されなくなった里山も多くみられる一方、価値の高い樹木も多く存在します。そういった樹木をお店などの植栽として活用するためのシステム(=山採りビジネス)を構築し、里山資源を保全しています。加古川市広尾西、中西条地区でワークショップを実施しました。

今後の課題 生産～消費に至るシステムの構築



2. まちづくりと一体となったため池管理方法の提示

ため池や水辺は、地域全体の問題であり資源です。町内会など地域のまちづくり組織との関連性を整理し、まちづくりと一体となった、ため池管理方法を提示していきます。

C エコビジネスの促進に向けた農家・市民・ビジネスセクターの連携

1. バイオエコノミーに対応した新事業探索

化石燃料をはじめ天然資源に大きく依存する工業化社会の生産・消費スタイルは環境に大きな負荷を与えています。化石燃料に依存しない、新たな事業や経済システムを生み出していきます。

2. ため池の新たな利用を模索するマッチング

ため池にはどのような可能性があるでしょうか。新たな価値を生み出し、それを実装するためのマッチングを促すとともに、利害関係の調整を図る役割を担っていきます。

再生可能エネルギー活用によるため池保全の検討

ため池ソーラーに関する問題・課題・可能性を、聞き取り調査を通して明らかにしてきました。環境への影響などにも考慮しつつ、エネルギーの地産地消に向けた可能性を模索しております。



《取り組みの内容》

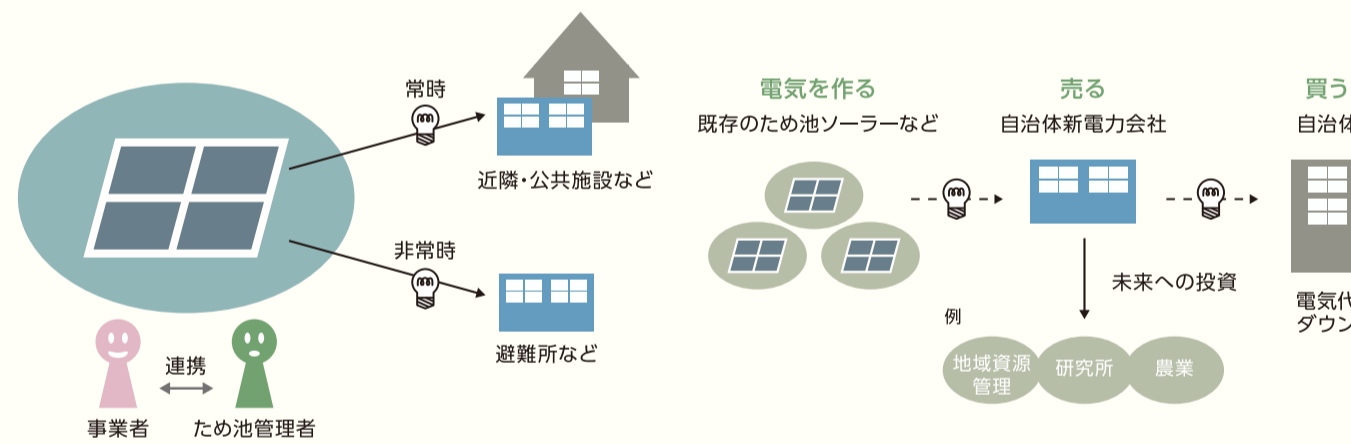
- ため池ソーラー設置におけるコンフリクトの実態調査
- ため池ソーラーに関心を示すため池管理者へのヒアリング調査(6地域: 明石市西島地区他)
- 3市2町の担当課(農水、管財、環境)を対象としたワークショップの開催(12/11)やヒアリング調査
- ため池ソーラー事業モデルの提案

提案①

ポストFIT時代における電力自給と非常時対応を備えたため池ソーラー事業

提案②

既存の再生可能エネルギーと地域を繋ぐ自治体新電力事業の提案



今後の課題 環境への影響の把握、対話の場の創造、財産区財産の活用、コンフリクトの把握・予防

2 新しい連携を支えるツール・プラットフォームの開発

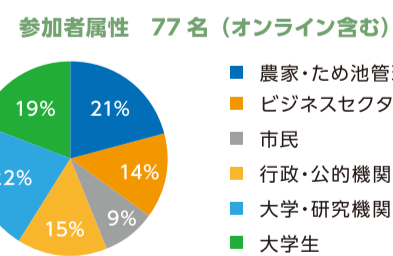
1. ため池サービスの見える化と分析ツールの開発・運用

ため池サービスの評価枠を作成するとともに、ため池サービスの見える化に取り組んでいます。また、コンフリクト分析ツール、治水機能の評価手法の構築、ランダム化比較試験などの開発・分析をおこなっています。

2. 人材育成プラットフォームの構築

地域社会を支える人材を育成していくにあたって必要なプラットフォームのあり方に関する研究をおこなっています。

ため池を活用したエコビジネスを考えるフォーラム



基調講演

「脱化石燃料時代のため池景観を考える」

2050年にカーボンニュートラル達成を目指すことになった日本。大きな産業転換が必要で、東播磨のため池景観にどのような変化が生じるのか考えてみたいと思います。



長野 宇規
神戸大学大学院農学研究科 准教授

総合討論

「エコビジネスの可能性や留意点、課題を考える」



池本 廣希
いなみ野ため池ミュージアム運営協議会 副会長



野村 隆幸
兵庫南農業協同組合 代表理事専務



丹羽 英之
京都先端科学大学バイオ環境学 准教授



内平 隆之
兵庫県立大学 地域創造機構 教授



井筒 耕平
(株)sonraku 代表取締役 神戸大学大学院農学研究科 教授



【ファシリテーター】
中塚 雅也
神戸大学大学院農学研究科 教授

目的
エコビジネスの可能性や留意点・課題について様々な活動領域の方々話し合い、新たな連携が生まれやすい土壌を形成。

内容
領域間や時間軸のバランス(環境と経済、未来と現在に求められる活動、水があることで広がる選択肢とデメリット・リスクなど)を保つ重要性を共有。今後、様々なエコビジネスの可能性は増す。ため池ソーラー以外の新たなビジネスを展開していくにあたって、ため池ソーラーをどう扱っていくかというのは、東播磨のナレッジになる(試金石としてのため池ソーラー)。

今後求められる取り組み
バランスの取り方:話し合う仕組みづくりや、話し合う材料(ゾーニングなど)の整理、ため池利活用のディレクションのあり方を検討する必要性。

情報発信

ホームページやFace Bookに加え、動画(YouTube)、ブログ(note)での情報発信をおこないました。

YouTube



note



相談対応

地域資源の管理、地域づくり活動など、地域の発展に資する相談にお応えするとともに、連携事業も進めています。地域住民や企業、行政、大学・研究機関などから、多様な相談が集まっています。

研究・実践

ため池管理における市民参画のあり方、ため池の多面的評価、流域の治水機能の評価、ため池ソーラーが環境に与える影響、地域資源管理の計画づくりなど(連携大学:九州大学、東京農工大学、東洋大学、リズ大学など)

ビジネス

地域資源の活用、営農組合の経営、新規就農促進、企業の農業参入、農業と福祉の連携、ローンの活用など

その他

地域活動への参画・場づくり、資源(ヒト・モノ・カネなど)の仲介、講演依頼など

	2018 (2018.7~)	2019	2020
相談件数(のべ)	50	100	82
訪問人数	436	1097	750
視察件数	13	16	18
講演件数(参加人数)	7(460)	7(420)	6(452)